

2026 年 9 月 7 日

TOPPAN ホールディングス株式会社

TOPPAN ホールディングス、
高輪オフィスが「第 39 回日経ニューオフィス賞」を受賞
「つくる・ためす・うる」をコンセプトとする対話と共創を誘発するオフィス設計が評価

TOPPAN ホールディングス株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長 COO:大矢 諭、以下 TOPPAN ホールディングス)はこのたび、高輪ゲートウェイシティ「THE LINKPILLAR 1 SOUTH」に開設した高輪オフィスが、「第 39 回日経ニューオフィス賞」において「ニューオフィス推進賞」を受賞しました。

「日経ニューオフィス賞」は、一般社団法人ニューオフィス推進協会及び日本経済新聞社が主催、経済産業省と日本商工会議所が後援する、創意と工夫をこらした快適で機能的なオフィスを審査・表彰するものです。

今回、グループ全体でのシナジー創出や事業の競争力強化を加速させるという考えのもと、「つくる・ためす・うる」をコンセプトとして、部門を超えた偶発的なコミュニケーションが生まれるエリアや研究エリア等、組織横断の対話と共創を誘発するオフィス設計が高く評価され受賞に至りました。



「第 39 回日経ニューオフィス賞」授賞式の様子

■ 受賞の背景

TOPPAN グループは目指す姿を「True Value Transformation 事業・人財・資本を磨き 世界に真の価値を提供する」と定め、顧客や社会の課題を解決し、社会と経済の価値向上に繋げるサステナビリティ経営を実践しています。また、2026 年 4 月 1 日に事業会社 3 社を統合するとともに、BU(ビジネスユニット)制を導入し、各社に分散していたリソースを一つに集約してお客さまへの提供価値を最大化する体制を構築しました。

その中で、お客さまのアクセスに優れた高輪という立地を活かし、社内外の対話と共創を促進して提供価値の最大化を図るため、「つくる・ためす・うる」をコンセプトとした高輪オフィスを 2025 年 10 月に開設しました。議論から一歩踏み出しアイデアの具現化を行う「つくる」、絶え間ない試行と検証を積み重ね、継続的なブラッシュアップを図る「ためす」、具現化したアイデアに対してフィードバックを受け、お客さまの課題解決に資する商品・サービスの提供とビジネス化を目指す「うる」を循環させるオフィス設計が評価され、受賞に至りました。

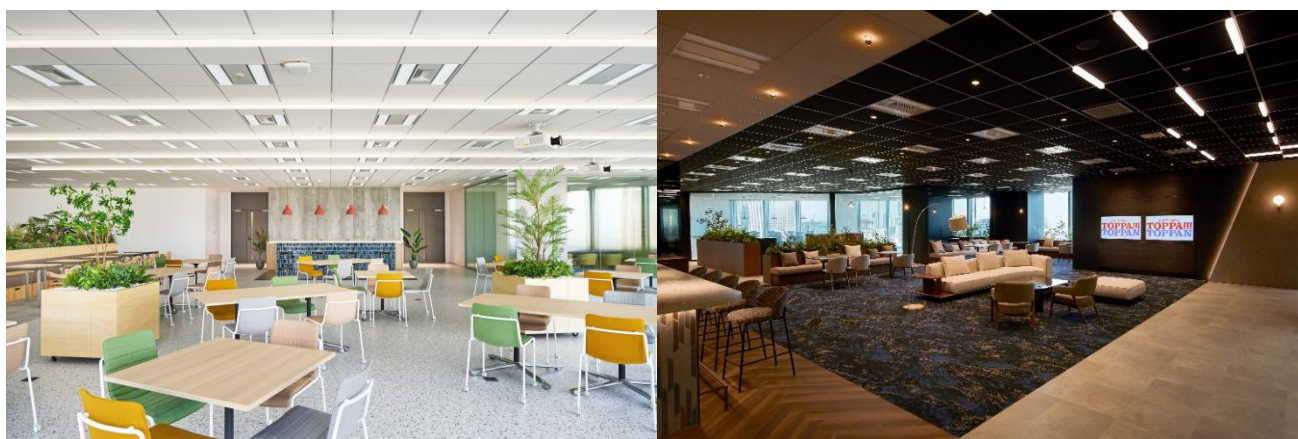
■ 高輪オフィスの特徴

1.対話と共創を誘発し、新たな価値を生み出す空間設計

事業会社の統合によるシナジーを最大化するため、社員の偶発的な対話を促す空間を設計しました。異なる機能を持ったマグネットエリア、ワークエリア、特殊要件エリアの 3 つのエリアを配置しています。

・マグネットエリア

フロアごとに交流、集中、経営層との対話といった異なる機能を持ったエリアを配置し、それらを連動させることで、フロア間の移動を促し部門を超えた偶発的なコミュニケーションを誘発するスペースです。試作品を展示して社員や経営層の意見を聞く「ためす」場や、空間演出と情報発信を両立するインテリアディスプレイ「ダブルビュー®・ヴィジョン」等の自社商品をオフィスに実装し、お客さまにオフィスを紹介する動線の中で製品の魅力を伝え「うる」に繋げる場として機能しています。



・ワークエリア

業務内容や目的に合わせて働く場所や時間を自ら選べる ABW(※1)を導入した執務スペースです。集中作業用のソロワーク席やチーム用のグループアドレス席等、多様な働き方に合わせた「つくる・ためす・うる」の実現をサポートしています。ミーティングスペースには瞬時に透明と不透明を切り替えられる液晶調光フィルム「LC MAGIC™」を採用し、セキュリティと開放感を両立した働きやすい空間を構築しています。



・特殊要件エリア

高度な専門業務や新事業に向けた研究開発を行うためのハイセキュリティなスペースです。出入りにテンキー入力端末や生体認証端末を設置し、厳格な入退室管理のもとで社員が安心してアイデアの具現化ができる「つくる」環境を整えています。

2. デジタル技術で新しい働き方に対応

グループアドレス(※2)やリモートワーク等の新しい働き方を支援するため、デジタル技術を実装しました。その1つが、アプリから郵便物の確認や配達、ドリンク注文や配送手配ができるロボットデリバリーシステムです。社員がどこにいても郵便物を確認できる等、利便性を高めました。

またロボットの配送操作を、グループ会社の第三セクター方式による重度障がい者雇用モデル企業である東京都チャレンジドプラストップパン株式会社が担い、新たな職域を開発することで障がい者雇用の促進に寄与しています。

なお、このシステムは「つくる・ためす・うる」を実践する中で製品化されました。ロボットの管理システム「TransBots®」、顔認証システム「CloakOne®」等のTOPPANグループが提供するサービスを連携させて構築したシステムです。



3. 環境意識を高める風土の醸成

廃材をアップサイクルした商材を各所に利用し、社員が日常的に環境配慮型の製品に触れることで、環境意識を高める風土を醸成する場として機能しています。例えば、製造工程で出る廃木材と廃プラスチックをアップサイクルした空間演出材料「TOPPAN マテリアルウッド」を活用し、ワークスペース内のベンチとして設置しています。また、非塩ビ製の化粧シートを使った不燃化粧パネル「LOVAL®」や内外装不燃アルミ意匠材「フォルティナ®」といった、TOPPAN グループが提供する環境配慮型商材を壁面や天井演出に利用しています。



※1 ABW(Activity Based Working):業務内容や目的に合わせて、働く場所や時間を自律的に選ぶ働き方。

※2 グループアドレス:部署やチームごとに決められたエリア内で、社員が自由に席を選んで働くオフィスの座席運用スタイル。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のもので、その後予告なしに変更されることがあります。

以 上